だれかに 喋りたい
秀吉の姫路城のこと。

TOYOTOMI IMPACT

姫路市埋蔵文化財センター 令和８年度秋季企画展
トヨトミインパクト
－羽柴・木下期姫路城研究の新地平－

10.4㈯ ▸ 12.20㈰

TOYOTOMI IMPACT

—羽柴・木下期姫路城研究の新地平—

10.4㈯▸12.20㈯

池田輝政による築城から、現在まで守り続けられてきた姫路城。その石垣の一部や城下町の下層には、羽柴秀吉をはじめ“豊臣一族”時代の遺構が残されていることをご存知でしょうか。豊臣一族が城主や城代として姫路城に入ったことは、古文書などから明らかにされている一方、考古学的研究はいまだ途上で、羽柴・木下期姫路城の実像はベールに包まれたままの状態でした。

本展では、古代・中世の姫路とその周辺における人々の営み、戦国期の姫路市域に所在した城館の様相などを考古学的視点から紹介した後、織田政権の下で播磨に入った羽柴秀吉による姫路城築城、初期城下町形成について考察します。とりわけ、姫路城大天守地下から出土した軒瓦、城内で確認できる羽柴・木下段階の石垣、それぞれの研究から新たに明らかになったことをご紹介します。また、池田輝政による城下町は、羽柴・木下段階の、いわゆる初期城下町に影響されていたとする近年の研究成果もあわせて示し、羽柴・木下期姫路城の解明を試みます。

プロローグ「栄華の片鱗か」

織田信長や豊臣秀吉に関係する城郭などに用いられ、権力や権威を象徴するものとされる金箔瓦。令和 7 年に行われた姫路城下町跡の発掘調査で、兵庫県下初となる金箔瓦が出土しました。本展で初公開します。

第１章「古代・中世の姫路点描」

姫路城下町の下層では、播磨国府やその関連施設と目される遺構や遺物が各所で見つかっています。また中世においては、郊外に位置する集落との共通性も指摘されています。播磨国府系瓦や緑釉陶器、墨書土器などの出土品を通じて、その様相を紹介します。

第２章「秀吉襲来前夜」

戦国時代後半の播磨では、有力国人衆がそれぞれの領域支配を展開しました。しかし、羽柴秀吉が中国（毛利）攻めのために播磨に進軍したことで、状況は一変します。本章では、姫路市域に所在する守護や国人衆の拠点となった城館を、出土品などを用いて紹介します。

第３章「秀吉、姫路城を築く」

姫路に入った羽柴秀吉は、信長の命を受けて姫路城の普請を行ったとされます。姫路城昭和の大修理では、秀吉の普請によるものと考えられる石垣や礎石、瓦や土器などが見つかりました。本章では大天守地下から見つかった軒瓦、城内に残る古相の石垣、城下町の発掘調査成果からみえてくる羽柴・木下期姫路城の姿を紹介します。

エピローグ「秀吉の天下統一と姫路」

本能寺の変で信長が討たれた後、家中で台頭した秀吉は、天正 18(1590) 年に天下統一を果たします。また秀吉は、大坂城や聚楽第などを築城し、その権勢を誇示しました。これらの屋根瓦には、姫路城やその周辺寺院と共通するものが確認されています。本章では、大坂城跡や聚楽第大名屋敷跡から出土した金箔瓦を展示し、両者の関係性に迫ります。

「大坂城図屏風」部分　大阪城天守閣所蔵

展示解説

10月4日(日)
11月14日(土)
12月19日(土)
10:30～/13:30～(各回1時間程度)
参加費:無料

講演会

事前申込
定員 180 人

申込期間10/20(火)～11/4(水)必着

『秀吉の姫路城を探る』

羽柴･木下時代の姫路城についてご講演いただきます。

日時・2026 年 11 月 23 日（月・祝）
時間・13：30 ～ 15：00
講師：中井　均氏（滋賀県立大学名誉教授）
場所：日本城郭研究センター　大会議室
参加費：無料

史跡見学会

事前申込
定員 30 人

申込期間11/10(火)～11/24(火)必着

姫路城攻略

今も姫路城に残る羽柴･木下時代の痕跡を、専門職員の解説を聞きながら巡ります。

日時・2026 年 12 月 13 日（日）
時間・10：00 ～ 12：00
集合 / 解散場所：姫路城三の丸広場
参加費：１人 300 円

姫路市埋蔵文化財センター

Himeji City Archaeological Research Center

〒671-0246　兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1
TEL　(079)252-3950
FAX　(079)252-3952
E-mail　maibun-center@city.himeji.lg.jp

開館時間　10時～17時(入館は16時30分まで)
観覧料　無料
休館日　毎週月曜日(祝日の場合は開館)、
祝日の翌日(土曜日・日曜日は開館)、12月28日～1月4日